

1 学校教育目標

学ぶ 鍛える 思いやる

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	持続可能な社会の実現に向けて 進化し続ける学校 安心・安全な学校
○児童・生徒像	豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手となる生徒の育成 1 文章や情報を正確に読み解き、対応する力をもつ生徒 2 様々な分野に対して好奇心、探求心をもつ生徒 3 他者の意見を受容し、調整する力を身につけた生徒 4 困難なことを乗り越える力をもつ生徒 5 価値を見つけ出す感性と力を備えた生徒
○教師像	持続可能な社会の創り手の一員として、多様性を受け入れ、新たな価値を創造する教師 Society5.0を生きる生徒を育てる教師 学び続ける教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学校の現状と課題
 予測困難な未来社会を牽引する人材となる生徒には、新しい価値を創造する力が求められる。多様性を受け入れ、協働し、価値を創造する力の育成には、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させることが必要であり、その上で思考力・判断力・表現力が育まれていく。
 本校生徒は、学習意欲や自己肯定感が高いが、各種学力調査の結果は満足できるものではない。基礎基本の定着と読解力向上の取り組みを継続させ、主体的な学びの活動を取り入れ、思考力・判断力・表現力を育成していく。
 また、学びの意欲が向上する基盤となるのは生活規律の確立、規範意識の醸成が重要である。引き続き、生活指導の徹底を図りたい。

2 成果
 生徒の学力向上には、教師の授業改善・授業力向上が不可欠である。教師の授業観察週間と研修の実施は今後も継続していく。生徒の授業アンケートでは「学ぶ楽しさ」が概ね90%となったのが、授業力向上の取り組み成果である。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	生活規律の確立、規範意識の醸成	○	○	○	○	○
3	学校、家庭、地域の協働による生徒の育成	○	○	○	○	○
4	支援の必要な生徒、不登校生徒への継続的支援	○	○	○	○	○

5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎的・基本的学習内容の定着 文章や情報を読み解く力の育成		年度末到達度確認テスト正答率 55% 令和4年度区調査通過率51%							
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	朝学習・補 充教室の 徹底	5教科 (国社数 理英)	平均週 4日	各学年・教科担当 ドリル学習 補充学習	R4区学力調 査 各種コンテ スト	各種コンテスト 合格者85%以 上。			
2 継続・ 新規	読解力向 上の取組	全教科 (国語・ 社会を中 心に)	定期考 査後1 週間	国語・社会を中心とした NIE活動の実践。 読書活動の推進。	R4各種学力 調査	各種学力調査にお ける読解力の理解 を問う項目の正答 率の向上。 図書館利用者の増 加。			
3 継続・ 新規	各種コン テストの 充実	3教科 (国数 英)中心	土曜授 業・長 期休 業明 け	各種コンテストを全校体 制で組織的に行う。また、 合格を目指し、放課後補充 学習をコンテスト前に重 点的に行い、充実を図る。	R4各種学力 調査	各種学力調査 によるD層の 減少3%。			
4 継続	教員の授 業力向上 の取組	全教科	通年	全教員 足立スタンダードの徹底。 十三中スタンダードによる授 業観察週間の設定と振り返り 研修の実施。 小中連携を軸とした授業研 究。 ICTの積極的活用。	生徒による授 業アンケート	「めあて」「まと め」の実施100% 「指示や説明のわ かりやすさ」80% 以上。 「学ぶ楽しさ」 80%以上。			

重点的な取組事項－２		生活規律の確立、規範意識の醸成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生活規律の確立、自己肯定感、自己有用感、帰属感の醸成		生活アンケート等による該当項目前年度比現状維持～３％上昇			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
安心・安全な学校生活を送るために生活規律の徹底	生活アンケート「あいさつ、服装、持ち物などについて、学校のきまり」を守っている９０％以上。	生活指導の徹底。 生徒会執行部や学年委員会を中心に、生徒の主体的な活動を取り入れた生活規律徹底のための活動を展開。			
情報モラルの醸成	生活アンケートにおけるSNSトラブルに巻き込まれたことがある生徒の割合５％以下	セーフティ教室を軸とした情報モラル教育の実施と保護者への啓発活動の実施。			
いじめ防止に向けた取組の実施と早期発見早期対応	いじめアンケートによるいじめの申告が各学年０を目指す	休み時間等の巡回。生徒の見守りを常に行い、早期発見早期対応につなげる。 QUアンケートの結果分析とQU研修会の実施。 SC・SSWとの連携 生活指導部、いじめ防止対策委員会を中心とした組織マネジメントによるいじめ対応。 外部機関との適切な連携			

重点的な取組事項－3		支援の必要な生徒、不登校生徒への継続的支援			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
不登校生徒の減少 支援を要する生徒の情報共有 特別支援教室の円滑な運営		教室復帰を目指せる生徒の増加 関係諸機関との円滑な連携 特別支援教室退級見込み生徒の増加			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
支援の必要な生徒に対する情報共有と適切な支援	支援の必要な生徒の居場所作り 外部専門機関との円滑な連携体制の構築	定期的な特別支援教育委員会の開催。 S C、S S Wと連携した多面的なカウンセリングと支援。 外部専門機関との適切な連携（ケース会議等の開催）			
不登校生徒の減少	教室復帰の人数増加	S S W、登校サポーター、チャレンジ学級等の活用。 個別対応を要する生徒の居場所の確保と学習支援を行うS Sルームの運営。			
特別支援教室の円滑な運営と連携体制の構築	取り出し授業の円滑な実施。所属学級担任との十分な情報共有と連携。 退級見込み生徒の増加。	特別支援コーディネーターを中心とした特別支援教育委員会等での情報共有と調整。 円滑な個別支援計画の作成と実施。			

重点的な取組事項－４		学校、家庭、地域の協働による生徒の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
地域人材を活用した教育活動の実践 地域への帰属感・誇りの醸成		生活アンケート「地域に貢献できる大人になりたい」60%以上			
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
地域人材を活用した キャリア教育の実践	保護者アンケート「学校はキャリア教育によく取り組んでいる」の「わからない」を5%減少	開かれた学校づくり協議会を中心とした地域人材による「職業人の話を聴く会」（1年）マナー講座（2年）、面接指導（3年）等の実施。 キャリア教育に関する情報発信。			
地域と協働した活動の推進	生活アンケート「地域に貢献できる大人になりたい」60%以上	生徒会執行部を中心としたペットボトルキャップの回収。 全校生徒による地域清掃活動 各種委員会や部活単位の体験活動やボランティア体験。 PTA・地域主体の「あしの芽祭」への参加。 PTAと生徒会の協働によるあいさつ運動の実施。			